千住真理子 ヴァイオリン・リサイタル

ピアノ：山洞 智

1部

主よ、人の望みの喜びよ……J.S.バッハ
カノン ……パッヘルベル
夜想曲 第2番 ……ショパン
ロマンス ……シューマン
月の光 ……ドビュッシー
夜想曲 第20番 遺作 ……ショパン
黒い瞳 ……ロシア民謡

2部

亡き王女のためのパヴァーヌ ……ラヴェル
スラヴ舞曲 第2番 ……ドヴォルザーク
パガニーニの主題による狂詩曲 第18変奏
……ラフマニノフ
思い出 ……ドルドラ
「カヴァレリア・ルスティカーナ」より
アヴェ・マリア ……マスカーニ
家路 ……ドヴォルザーク
愛の夢 ……リスト
ハンガリー舞曲 第5番 ……ブラームス

春

2007 四季のコンサート

2007年4月14日(土)6:45 PM
会場：浜松市教育文化会館
主催：浜松音楽友の会

プロフィール

千住真理子（ヴァイオリン）

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位。NHK交響楽団と共演し12歳でデビュー。日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。パガニーニ国際コンクールに最年少で入賞。1993年文化庁「芸術作品賞」、1994年度村松賞、1995年モービル音楽賞奨励賞を受賞。NHK朝の連続テレビ小説「ほんまもん」の音楽を兄の千住明氏が担当、千住真理子が演奏し、全国で注目を浴びた。2002年秋、ストラディヴァリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たし、話題となる。2003年8月に東芝EMIより移籍第1弾となるCD「カンタービレ」を発売し、高い評価とセールスを記録。2004年4月に第2弾となる「愛の夢」を発売。2005年はデビュー30周年を迎え、ベルリン室内管弦楽団と共演。また記念アルバム「愛のコンチェルト」を発売。2007年1月にCD「ドルチェ」を発売。2月にはスロヴァキア室内オーケストラ、および小林研一郎率いるオランダ・アーネム・フィルハーモニー管弦楽団と全国ツアーをして好評を博す。

山洞 智（ピアノ）

4歳からピアノを、14歳から作曲を学ぶ。1993年東京藝術大学大学院修了。90年大学より安宅賞受賞。91年第60回日本音楽コンクール作曲部門首位、併せて安田賞受賞。その後フランス政府給費留学生として渡仏。パリ国立高等音楽院にてさらに研鑽を積む。作曲と演奏の双方に渡り活動を展開、また両者を繋ぐ新曲の初演も多数。ピアニストとしては独奏以外でも、とくに室内楽分野で内外のトップアーティストの共演者として絶大な信頼を寄せられている。97年8月に帰国。98年8月には国際交流基金派遣で南米ブラジル、アルゼンチンの各地まで演奏旅行にでかける。現在、東京藝術大学、国立音楽大学、東京音楽大学講師。

千住真理子
ヴァイオリン・リサイタル

写真：宅間國博

MARIKO SENJU
VIOLIN RECITAL

曲目解説　　真嶋　雄大

●J.S.バッハ（1685～1750）／**主よ、人の望みの喜びよ**

ケーテンの宮廷楽長を辞し、バッハがライプツィヒの聖トーマス教会カントールに就任して1ヵ月、1723年7月2日にカンタータ第147番《心と口と行いと生活で》が礼拝で初演された。この《主よ、人の望みの喜びよ》は、そのカンタータ中で歌われるコラールである。

●パッヘルベル（1653～1706）／**カノン**

バッハの長兄ヨハン・クリストフ・バッハの師でもあったパッヘルベルは、バロック音楽史上に大きな足跡を残したドイツの作曲家である。カノンとは、ひとつの声部を別の声部が厳格に模倣しながら展開する技法。クルト・レーデルの編曲により広く親しまれるようになった。

●ショパン（1810～1849）／**夜想曲　第2番**

ジョン・フィールドの創始した夜想曲を発展させ、新しい芸術のジャンルに進化させたのがショパンである。そのショパンは夜想曲を21曲書いた。その中でもこの「第2番変ホ長調作品9-2」は、比類なき甘美な旋律と流れるような和声進行で、抜群の人気を誇る。

●シューマン（1810～1856）／**ロマンス**

「ピアノ伴奏によるオーボエのための3つのロマンスOp.94」として1849年ドレスデンで作曲された作品の第2曲である。三部形式で書かれ、「素朴に、内的に」と指示されているように、静かな抒情が印象的に歌われる。クラリネットやヴァイオリンで演奏されることも多い。

●ドビュッシー（1862～1918）／**月の光**

4曲からなる「ベルガマスク組曲」の第3曲に置かれたこの「月の光」は、ドビュッシーのピアノ曲の中でも人気の高い作品で、独立して演奏されることも多い。月の光が水面にゆらゆらと輝いている光景を優美に描写していて、甘美な和声推移と共に美しい旋律が幻想的に現れる。

●ショパン／夜想曲　第20番　遺作

ショパンの夜想曲には、それぞれ豊かで繊細な装飾が施されているが、この「第20番」は独特のドラマティックかつメランコリックな詩情に彩られている。ショパン没後の1875年に出版されたため「遺作」となったが、近年映画「戦場のピアニスト」で使用されてまた注目を浴びた。

●ロシア民謡／黒い瞳

数多いロシア民謡の中でも最も親しまれている曲の一つである。19世紀前半ウクライナ出身の詩人グレベンカが詞を書き、1884年に出版、稀代のバス歌手フョードル・シャリアピンの歌唱によって世界的に知られるようになった。ロマの哀愁が漂う名曲である。

●ラヴェル（1875～1937）／**亡き王女のためのパヴァーヌ**

ラヴェルが1899年に作曲したピアノ曲である。「パヴァーヌ」とは2拍子のゆったりとした優雅な宮廷舞曲で、ラヴェルはスペインの画家ベラスケスの描いた王女の肖像画にインスピレーションを得て作曲したと伝えられている。後に自身による編曲で管弦楽曲にもなっている。

●ドヴォルザーク（1841～1904）／**スラヴ舞曲　第2番**

ドヴォルザークを世界的な作曲家として認知させたのが、この「スラヴ舞曲」である。ボヘミアの民族的舞曲を巧みに取り込み、8曲ずつ2集にまとめられた16曲は、躍動的で溌剌たる個性に溢れ世界各地で熱狂的に迎えられた。演奏されるのは第2集第2曲のホ短調である。

●ラフマニノフ（1873～1943）／**パガニーニの主題による狂詩曲　第18変奏**

この作品はピアノと管弦楽のために書かれており、パガニーニの「カプリース」の有名な第24変奏を主題とし、それを24の変奏曲にまとめ上げている。極めて複雑かつ技巧的、また色彩感豊かな作品で、第18変奏はアンダンテ・カンタービレ、ふくよかな情感で歌われる。

●ドルドラ（1868～1944）／**思い出**

チェコに生まれ、ウィーンでヴァイオリンの名手として、また指揮者としても活躍したドルドラは、作曲家としても多くのヴァイオリン曲などを残した。この「思い出」は、アンダンテ・トランクイロ、ニ長調で、この上なくノスタルジックな憧憬に溢れたロマンティックな作品である。

●マスカーニ（1863～1945）／「カヴァレリア・ルスティカーナ」より **アヴェ・マリア**

マスカーニは19世紀末イタリアのオペラ作曲家、指揮者で、歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」はその代表作。シチリアの伝統により、妻の不倫相手に決闘を挑んで惨くも命を落とす物語で、直訳すると「田舎の騎士道」。この「アヴェ・マリア」は決闘直前に流れる哀しく美しい間奏曲。

●ドヴォルザーク／家路

ドヴォルザークは、音楽院院長に就任するためアメリカに渡った。そこでインディアンの音楽や黒人音楽にインスピレーションを受け、「交響曲第9番《新世界より》」、「弦楽四重奏曲《アメリカ》」、「チェロ協奏曲」などの傑作を生み出した。この「家路」は《新世界》の第2楽章。

●リスト（1811～1886）／**愛の夢**

作曲家として膨大な作品を残したリストは、今日のピアノ演奏の礎を築いた大ピアニストでもあった。よく知られたこの「愛の夢」は、もともと自作の「3つの夜想曲」という歌曲の「第3番《おお、愛しうる限り愛せ》」を、1850年にピアノ独奏用に編曲したものである。

●ブラームス（1833～1897）／**ハンガリー舞曲　第5番**

「ハンガリー舞曲」はブラームスの作品の中でも特に親しまれている作品で、もとはジプシー音楽の素材を用いて連弾用に編曲したものである。取り分けこの「第5番」は情熱的で知らない者は無いほどの人気を誇っており、様々な楽器、編成に編曲されている。

まじま ゆうだい（音楽評論家）